

### 寄贈図書リスト

新企画は宇宙旅行！、吉田靖、四六判、240頁、1,365円（税込み）、TAC出版

ガリレオと地動説、Richard Panchyk 著、大森充香 訳  
B5判、196頁、2,940円（税込み）、丸善株式会社  
SFアニメを科楽する！ 福江 純、四六判、256頁、1,900円＋税、日本評論社

## 月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込みください。

e-mailで [jimu@geppou.asj.or.jp](mailto:jimu@geppou.asj.or.jp) 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送りください。

### 人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

#### 国立天文台先端技術センター教授

1. 教授 1名  
2. (1) 国立天文台先端技術センター  
(2) 東京都三鷹市大沢  
3. 電波天文学・可視光・赤外線天文学を中心とした国立天文台の事業と関連のある分野での開発研究  
4. 先端技術センターでは、主に可視光・赤外線天文学および電波天文学とその関連分野を中心として、地上・宇宙を問わずに先端的観測装置の開発研究を行っています。現在の重点は、ALMA（アタカマリ波サブミリ波干渉計計画）の超伝導受信機及びハイパーシュープリームカム（すばる望遠鏡の超広視野カメラ）の開発です。また基礎開発として、ポストALMAに向けた電波カメラ・TMT搭載焦点面観測装置のほか、近赤外線・重力波・太陽分野での科学衛星・観測ロケット搭載装置の開発を今後推進していきます。さらに、開発研究をサポートするためのメカニカルエンジニアリングショップ・オプトショップ等のワークショップ・ユニットを持ち共同利用に供されています。

電波天文学、可視光・赤外線天文学を中心とした国立天文台の事業と関連のある分野での開発研

究において、卓越した実績に基づき開発研究を推進すると同時に、先端技術センターの運営・将来計画の立案にも主導的役割を果たす教授を求めます。なお、開発研究だけでなく、開発した観測装置を用いた観測的研究も奨励されます。

- (1) 採用決定後なるべく早い時期、  
(2) なし
- 博士課程修了相当以上
- (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別）、(4) 主要論文のコピー、(5) 研究計画書、(6) 推薦書（ある場合のみ）。他薦の場合は、(1) から (5) について判断できる資料。
- 平成22年6月1日（火）必着
- (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台 台長 観山正見  
(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台  
先端技術センター長 常田佐久
- 封筒の表に「先端技術センター教授応募書類在中」と朱記すること。郵送の場合は簡易書留で送付すること。電子メールでの応募書類送付はできない。
- 提出書類は返却しません

#### 国立天文台研究教育職員（ハワイ観測所）

- 助教1名
- (1) 国立天文台ハワイ観測所  
(2) アメリカ合衆国ハワイ州ヒロ
- 天文学及び関連分野
- 国立天文台ハワイ観測所では、すばる望遠鏡による共同利用観測を推進すると同時に、将来に向けてのさまざまな開発研究を行っています。すばる望遠鏡による高いレベルの研究成果を維持・向上

させていくことを目的として、望遠鏡に関する研究・開発の中心的役割を担うと同時に、超広視野主焦点カメラや他の将来装置の搭載を見据え、すばる望遠鏡の性能をさらに向上させていく助教を求めます。

5. (1) 採用決定後できるだけ早い時期  
(2) 5年。再任なし。ただし、任期満了時の業績評価に基づき、任期のない助教となることが可能です。
6. 大学院博士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 履歴書, (2) 論文リスト, (3) 研究業績 (これまでの天文学研究の業績の他に、観測装置や望遠鏡に関する研究・開発の業績を具体的に記入して下さい), (4) 研究計画書 (個人で行う研究の計画に加え、ハワイ観測所で望遠鏡に関する研究・開発を担うにあたっての抱負・方針を具体的に記入して下さい), (5) 本人について意見を述べられる方3名の氏名と連絡先, (6) E-mail アドレス
8. 2010年5月7日(金) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台台長 観山正見  
(2) 国立天文台ハワイ観測所所長 林 正彦  
Subaru Telescope, 650 North A, ohoku Place,  
Hilo, HI 96720, USA  
Tel: +1-808-934-5071,  
Fax: +1-808-934-5984  
e-mail: masa@subaru.naoj.org
10. 封筒の表に「ハワイ観測所助教応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は配達記録でお送り下さい。選考は国立天文台運営会議で行います。

### 東京大学大学院理学系研究科 天文学教育研究センター教員

1. 助教1名
2. (1) 東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター  
(2) 東京都三鷹市大沢 2-21-1
3. 天文学
4. 当センターは銀河天文学、電波天文学、恒星物理学の3部門および木曾観測所で構成されています。これらの研究部門と連携をとりつつ研究を進められる方を求めます。大学院および学部教育も担当していただきます。
5. 採用決定後なるべく早い時期
6. 博士の学位あるいはそれと同等の研究歴をもつ方
7. (1) 履歴書 (写真添付), (2) これまでの研究概要,

(3) 業績リスト, (4) 主要論文別刷 (3編以内), (5) 着任後の研究計画と抱負. (6) 自薦の場合は本人について意見を述べられ方2名の氏名と連絡先. (7) 他薦の場合は推薦書の他に上記事項 (1)-(5) の書類.

8. 平成22年4月23日(金) 必着
9. (1) 〒181-0015 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター センター長 吉井 譲  
Tel: 0422-34-5027, Fax: 0422-34-5087  
e-mail: yoshii@ioa.s.u-tokyo.ac.jp  
(2) 提出先と同じ
10. 封筒に「助教応募書類」と朱書きし、直接持参するか、簡易書留で郵送。
11. 東京大学理学系研究科では、男女共同参画を積極的に推進しています。詳しくは、下記 URL の理学系研究科男女共同参画基本計画をご覧ください。  
<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/gai/sankaku/kihonkeikaku.html>

### 人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

### 東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター教員

1. 2009年8月(第102巻8号)
2. 本原顕太郎(東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター助教)
3. 2010年2月16日

### 神奈川工科大学基礎・教養教育センター(物理系列) 任期制准教授

1. 2009年9月(第102巻9号)
2. 西野晃徳(東京大学生産技術研究所助教)
3. 2010年4月

### 国立天文台研究員

1. 2009年12月(第102巻12号)
2. 一般枠: 祖谷 元, 台坂淳子, 橋本 淳,  
林 将央, 武藤恭之, 安井千香子  
プロジェクト枠:  
水沢 VLBI 観測所

澤田-佐藤聡子, 永山 匠  
 野辺山宇宙電波観測所  
 廿日出文洋  
 岡山天体物理観測所  
 神戸栄治  
 ハワイ観測所  
 古屋 玲, 石垣美歩  
 重力波プロジェクト推進室  
 我妻一博  
 ALMA 推進室  
 樋口あや  
 天文データセンター  
 山田善彦  
 先端技術センター  
 尾崎忍夫, 日比康詞

3. 2010年4月1日以降

### 東北大学大学院理学研究科天文学専攻教員

1. 2010年1月(第103巻1号)
2. 板 由房(国立天文台国際連携室研究員)
3. 2010年4月

## 研究助成

### (財)宇宙科学振興会による支援

#### A. 国際学会開催の支援

##### ・趣旨

(財)宇宙科学振興会(理事長武井俊文)では、宇宙科学研究を推進している国内の学術団体(研究所, 大学等)に属する研究者が主催し, 国内で開催される宇宙理工学に関する国際会議, 国際研究集会の支援を行います。詳細はホームページ: <http://www.spss.or.jp> をご参照の上, 申請書を電子メールにて財団宛(admin@spss.or.jp)にお送り下さい。

- ・助成対象: 国内の学術団体(研究所, 大学等)で, 宇宙理学(地上観測を除く)及び宇宙工学に関する国際会議, 国際研究集会の国内開催を主催しようとする団体。
- ・支援金額: 1件当たり20~50万円程度(年間5件程度)
- ・申し込み受付時期: 助成の申請は随時受け付けます(申請書はその都度個別に当財団の審査会にて採否を審査いたします)。申請書の提出は会議開

催の3カ月以上前とします。

#### B. 若手・シニア研究者の国際学会参加費用の支援 ・趣旨

(財)宇宙科学振興会(理事長武井俊文)では、国際研究集会への参加費用支援を行っております。本支援事業は35歳以下の若手研究者及び63歳以上で定年退職したシニア研究者を対象としております。詳細はホームページ: <http://www.spss.or.jp> をご参照の上, 申請書を電子メールにて財団宛(admin@spss.or.jp)にお送り下さい。

- ・支援対象: 宇宙理学(地上観測を除く)及び宇宙工学(宇宙航空工学を含む)に関する独創的・先端的な研究活動を行っている若手研究者(当該年度4月2日で35歳以下), またはシニアの研究者(4月2日で63歳以上で定年退職した者)で, 国際研究集会で論文発表または主要な役割などが原則として確定している者。
- ・支援金額: 1件当たり10~25万円程度
- ・申し込み受付時期  
 7月1日以降10月末までの出発者: 5月15日まで  
 11月1日以降2月末までの出発者: 9月15日まで  
 3月1日以降6月末までの出発者: 1月15日まで

#### ●照会先(A, Bともに)

財団法人宇宙科学振興会事務局

<http://www.spss.or.jp>

〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1

E-mail: admin@spss.or.jp

Tel: 0427-51-1126

## 研究会・集案案内

### 国立天文台野辺山宇宙電波観測所「電波天文観測実習」の参加者募集

国立天文台野辺山宇宙電波観測所では、45m電波望遠鏡を使った「電波天文観測実習」を行います(総合研究大学院大学「夏の体験入学」)。当観測所は、45m望遠鏡・10mサブミリ波望遠鏡(南米チリ)を用いて多数の星間分子の発見, 原始惑星系ガス円盤の検出, 銀河中心にある巨大質量ブラックホールの発見など数多くの重要な研究成果を上げています。この「電波天文観測実習」は、天文学に関心を持つ大学生の皆さんに研究の最前線で活躍中の45m望遠鏡を使った観測実習を通して、電波天文学の実際に触れていただくのがねらいです。参加者には普段研究者が行っている45m望遠鏡の操作, データ取得・解析, 結果のまとめをしていただ

きます。特に専門知識は必要ありませんが、大学で物理実験を経験していることが望ましいです。関心をお持ちの多くの方のご応募をお待ちしています。

開催日程：2010年8月2日(月)13時30分～8月6日(金)11時30分(4泊5日)

場 所：国立天文台野辺山宇宙電波観測所  
(JR 小海線野辺山駅から徒歩40分)

定 員：8名程度

対 象：大学の理科学部(教育学部の理科学も含む)に属する学生(1～4年生)

費 用：旅費・滞在費がサポートされる可能性があります。

応募方法：住所、氏名、所属大学及び学部・学科、学年、年齢、性別、電話番号、E-mail アドレス(持っている場合)を明記の上、以下の(1)～(4)に回答し、7月5日(月)必着で下記の応募先まで送付。

- (1) 大学で物理実験の経験がありますか？
- (2) (1)で「はい」と回答された場合、一番印象に残った実験は何ですか？どのような点で印象に残ったのですか？
- (3) あなたが持っている天文学への想い・イメージについて何でも結構ですのでお書き下さい。(600字以内)
- (4) 実習に参加希望の理由は何ですか？(600字以内)

なお、送付された資料は返送いたしません。選考結果の発表：7月12日郵便で発送(※上記住所以外への発送を希望する場合は発送先を明記して下さい。)

問合せ先・応募先：

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山462-2

国立天文台野辺山宇宙電波観測所「観測実習係」

Tel: 0267-98-4333

ホームページ <http://www.nro.nao.ac.jp/~nro45mrt/misc/45school.html>

封筒に「観測実習応募書類在中」と朱書して下さい。

## 茨城大学宇宙科学教育研究センター/国立天文台水沢 VLBI 観測所茨城局 第1回【公開天文台】のお知らせ

国立天文台では、旧 KDDI 茨城衛星通信所の2台の直径32メートルアンテナを宇宙電波望遠鏡に転換し、超長基線干渉計(VLBI)による観測研究を推進しています。茨城大学では宇宙科学教育研究センターを本年度開設し、宇宙電波望遠鏡を使って宇宙からやってくる電波をとらえ、星や銀河の構造と進化を探求します。子どもたちを含め、多くの地域のみなさんに、

宇宙の科学を知っていただき、親しんでいただく活動を行っていきたくと考え、第1回公開天文台を開催することとなりました。宇宙や私たちの地域で行われる天文学の最先端研究にも興味を持っていただけたと思います。

当センター隣接の高萩市衛星通信記念公園は県北の桜の名所でもあり、公開天文台開催は桜祭り開催中であり、地球の素晴らしさと宇宙への夢を同時にお楽しみ頂ける絶好の機会になると思います。是非ご来館ください。お待ちしております。

日 時：2010年4月10日(土)13時～17時・

11日(日)10時～16時 雨天決行

場 所：茨城県高萩市石滝上台627-1  
茨城大学 宇宙科学教育研究センター  
国立天文台 水沢 VLBI 観測所 茨城局

主 催：茨城大学

共 催：国立天文台

後 援：高萩市、日立市、高萩市教育委員会、高萩市観光協会

内 容：施設見学、講演、サイエンスカフェ、親子科学体験教室、パラボラ模型で遊ぼう、4次元シアター上映、物産展等

参加料：無料

駐車場：無料 普通車約300台駐車可(当日は混雑が予想されます)

アクセス：

鉄道：JR 常磐線高萩駅下車 徒歩約30分

バス：いぶき台団地行き、高萩工業高校前(約8分)下車、徒歩5分

乗用車：常磐自動車道 高萩インター 高萩市街方面約15分9km

注 意：アンテナ見学は動きやすい服装、靴で参加ください。

問合せ：茨城大学 宇宙科学教育研究センター

〒318-0022 茨城県高萩市石滝上台627-1

(月・火曜日休館 開館は10時から17時)

電話：0293-24-9516 FAX: 0293-24-9517

メールアドレス：infoast@mx.ibaraki.ac.jp

URL:<http://www.asec.ibaraki.ac.jp/>



## 会務案内

### 【理事会議事録】

日 時：2010年1月9日（土）午後1時～5時半

場 所：八重洲ホール4F 412会議室

出席者：國枝、渡邊、竹田、高田、田代、田村、堂谷、  
児玉、本間、半田、小川、藤沢、小嶋、藤本  
（以上14名）

欠席者：柴田

また、宮下事務長が出席した。

議事に先立って議長と署名人の確認がなされた。

議 長：國枝秀世

署名人：高田唯史、竹田洋一

#### 1. 報告

##### 1-1. 前回議事録の確認

資料1に基づいて國枝理事長より前回（2009年9月14日）の理事会議事録が報告・確認された。

##### 1-2. 資料準備等方針の確認

まず審議に先立ち、竹田庶務理事の説明のもとに、今後の事前の資料準備方針、報告事項と議決事項の区別、などについて話し合った。今回は資料の事前送付は見送ったが、次回からは（全部でなくとも間に合う限りのものを）やはり前もって送って目を通してもらうことになった。

##### 1-3. 新入会員等報告

竹田庶務理事から資料2に基づいて、前回からこれまでに入会した新入会員（ならびに正⇄準の移動者と退会者）がまとめて報告された。入会承認はすでに理事会メンバー内のメール上での審議で完了している。会員総数は約3,000名（そのうち正会員は約1,700名）でほぼ一定のレベルを保っている。

##### 1-4. 2009年度監査報告

竹田庶務理事より、資料3に基づき2010年1月5日に行われた2009年度の事業報告書と決算報告書の監事による監査が特に問題なく正当と承認されたことが報告された。この監査では、事業報告書内の数カ所が「個人の感情のこもったような表現で報告書として不適当ではないか」と指摘されたので、これは修正してある。

##### 1-5. 事業仕分けに対する声明文について

國枝理事長から資料4に基づき、昨年11月下旬に我が国の研究教育の体制と予算が民主党政権下の行政刷新会議により事業仕分けを受け、もしそれが性急に執行されれば多くの学術分野が深刻な危機に陥りかねない状況に鑑み、日本天文学会からも「事業仕分けと科学研究の将来について」と題する緊急声明文を出したことが報告された。また今回この仕

分けて結果的にどのような予算的影響があったかについても意見の交換があった。

##### 1-6. 今年度の年会準備状況について

本年2010年の年会の準備状況の報告が小嶋（広島大）、藤本（金沢大）の各開催地理事よりなされた。いずれも問題なく順調に進んでいるとのこと。2010年春季年会（広島大：3/24-27、記者会見は3/23、講演会は3/28）の公開講演会の講師4名（観山正見、大杉節、深沢泰司、寺田健太郎の各氏）も決定した。2010年秋季年会（金沢大）は日程が確定した（9/21が記者会見、年会は9/22-24の三日間、9/25が講演会）。

##### 1-7. 事業担当理事からの近況報告

半田教育理事からは講師派遣プロジェクトの立て直しをどのようにすべきかについて、秋の天文教育フォーラムでの議論を参考に地元の科学館との連帯を考慮した展開を検討していることが述べられた。

本間年会理事からは配付資料に沿って年会参加資格についての規定変更の議論（正会員と準会員との間で差を設ける、年会での講演を正会員と準会員に限る、日本天文学会に準ずる他学会の会員には講演を認めるなど）が実行委員会内で進められていることの報告があり、それに対して議論がなされた。他学会の様子や現在の規定になった過去の経緯などを調べるとともに今後検討を続ける。

児玉月報理事は、最近月報の目次にかなり大きなミスがあったことを機にその再発を防ぐべく校正体制の充実を図っていること、昨年の事業仕分けの際には編集部で迅速に対応してタイムリーに声明文を掲載できたこと、今年度の特集の予定（あかり、ブラックホール時空、すばる十周年記念歴代所長エッセイ、フェルミ）、について報告した。

堂谷PASJ理事はPASJ関係の最近の報告を行った（資料11）。編集顧問会議を仕切る幹事が桜井氏になったこと、今年度からの編集委員の交代（横山央明氏→永田伸一氏）、紙版投稿受付停止、紙版発送経費の節約、supplement論文の正式受付、国際化・電子化に向けた対応、など。

さらに竹田庶務理事より会員管理関係についての報告があった（新年度入会分から入会審査の方式が変わったこと、予定していたWebからのオンライン入会申請は諸般の事情により運用開始が数カ月遅れて春先になること）。

##### 1-8. 事務所職員関連報告

宮下事務長より資料5に基づき、2010年度の事務所職員十名の陣容、職員に関する法的な整備（労働保険加入、過半数代表者の選出、時間外労働協定、

就業規則など)を行ったこと, 超過勤務に対する制限と時間管理の方針, が説明された。

## 2. 議題

### 2-1. 2009 年度事業報告書案

竹田庶務理事より資料 6 に基づいて 2009 年度の事業報告案について説明があり了承された。但し, 本学会が共催・後援・協賛したシンポジウムや企画についても具体的な名称を掲載すべきだとの指摘があり, 対応することになった。

### 2-2. 2009 年度決算報告書案

田代会計理事より資料 7 に基づいて 2009 年度の決算報告案(一般会計と特別会計)についての説明があり了承された。報告書に予算額の最近の変化が一目でわかるようなグラフが入っているともっとわかりやすくなるとの提言もあった。

### 2-3. 2010 年春季総会議題等

竹田庶務理事より資料 8 に基づき, 春季総会の議題(事業報告, 決算報告, 監査報告, 理事長公選制)と(報告事業仕分けに対する声明, 会員名簿作成方針, その他)の案の説明があった。報告に世界天文年総括関係も加えることも提言されて了承された。

### 2-4. 理事長公選制について

國枝理事長より, 来年度からの理事長選任に向けて本年度に選挙を実施する予定で進めている, 理事長公選制における選挙施行細則の予定案(資料 9)が紹介された。すでに理事長・副理事長を中心にこれまでに検討を重ねられており, メールでも事前に回覧されているので, 基本的な内容自体の変更は要しないものの, 細かい文言の面でいくつか意見が出されたのでそれらを取り入れて評議員会に回すことで了承された。

### 2-5. 会員名簿作成方針について

竹田庶務理事より資料 10 に基づき, 本年秋に発行する予定の会員名簿(2年に一度作成)の作成方針案が説明された。議論の後, 会員アンケートで最多数の支持を得たものに『希望に応じて所属の具体的な名称を業種の一般的な名称に変更しても良い』という追加オプションを付加する案が採択された。つまり会員種別・番号と氏名と所属は必須で掲載(ただ所属は希望に応じて一般的職種名に書き換え可)。他の 4 項目は会員の意志で掲載か非掲載かを選択できるが, デフォルト(問い合わせに対して無回答の場合の措置)は, メールアドレスと所属先電話番号は掲載で自宅住所と自宅電話番号は非掲載。

### 2-6. PASJ の紙版配布停止オプション・電子版フリーアクセス権提供について

資料 11 に沿って, 堂谷 PASJ 理事から PASJ に関して目下検討されている二つの事案が説明された。一つは, 正会員に対する紙版の冊子の配布を希望者(つまり「電子版にアクセスできれば十分で, 紙版は不要なのでむしろ送ってほしくない」という意向の人)に対しては停止できるオプションを設けること(ただし紙版配布の有無にかかわらず会費は変わらない)。もう一つは, 現在(最新号を除き)出版後 2 年間はアクセス制限が設けられている PASJ 電子版に関して, 論文の著者が特に希望すれば追加料金(数万円～十万円のオーダー)を払うことで自分の論文の電子版ファイルに対しては最初からフリーアクセスにする, というものである。前者に対しては「会員の希望に応じていつでも自由に停止や復活ができるようにすること」を前提にして承認された。今後, 評議員会での承認を待って実施に移される。

一方後者については, 金額の根拠が明確でないこと, 広範に採用された場合の弊害についても考慮が必要なこと等が指摘されたので, 慎重に更に検討を続けることになった。

### 2-7. 巡回展延長に向けて

半田教育理事より, 昨年 4 月から東京～仙台～新潟～名古屋～大阪(現在開催中)と国内を巡回している世界天文年の企画展「ガリレオから 400 年, 宇宙の謎を解き明かす」は好評を博している今年一杯は継続したいとの説明があり, 次の防府市(科学館ソラール)での開催までは決まっているがそれ以後の予定は未定なので全国の科学館に積極的に呼びかけたいことが提案され, 了承された。また, 展示物も時間が経つにつれて傷んでくるので, 恒久的な落ち着き先のこともそろそろ考えておくべきとの意見も出された。

### 2-8. 賛助会員への見返りについて

賛助会員はその会費が年会に参加する学生会員への旅費の補助として有効に利用されているので会としても感謝すべきであるが, 現在はあまりこれといった見返りが提供されていない現状に鑑み, 広告の割引などの特典を検討してもいいのではないかとの提案が資料 13 に基づき半田教育理事より出された。意見を交換した結果, まずは天文月報誌上や旅費補助支給の際などにこれら賛助会員の名前をもっと頻繁に表に出して, 感謝の意を積極的に表明することから実行に移そうという方針で意見がまとまった。これを受けて, 具体的な対応を本間年会担当理事と児玉月報担当理事で検討することになった。

### 2-9. 次期理事・委員選出に向けて

竹田庶務理事より資料 14 を基に, 今年度末で現

在の理事・委員の任期が切れること、次期の任に当たる方は6月の理事会・評議員会を経て9月の総会で承認されること、したがってできれば春頃には人選がほぼ固まっているのが望ましいので各自探す準備をそろそろ始めてほしいこと、が伝えられた。現在の理事の数(15名)は定款で定められている人数(10-15名)の上限一杯で、新たな役職の理事を追加したくてもできない状況なので、将来的には理事の陣容を再構成すべきではないかとの意見も出た。

#### [次回の理事会]

次回の理事会は春季年会の会期中3月26日(第三日目)の昼時に行われる。

#### [資料]

- 資料1. 前回理事会議事録
- 資料2. 会員新規加入者、退会者等リスト
- 資料3. 2009年度監査報告
- 資料4. 事業仕分けと科学研究の将来について：日本天文学会からの声明
- 資料5. 日本天文学会事務所職員の陣容・職務と事務所諸問題整理
- 資料6. 2009年度事業報告案
- 資料7. 2009年度決算報告案
- 資料8. 2010年春季定期総会議題等案
- 資料9. 理事長公選制度における選挙施行細則案
- 資料10. 会員名簿作成方針について
- 資料11. PASJ 編集顧問・編集委員会議からの報告および議案
- 資料13. 賛助会員・広告関連資料
- 資料14. 定款抜粋・現役員リスト  
+当日配付資料：年会理事報告

[注：資料12は都合によりキャンセル]

2010年1月9日

議 長：國枝秀世  
署名人：高田唯史  
署名人：竹田洋一

#### 【評議員会議事録】

日 時：2010年1月23日(土) 13時-17時40分  
場 所：東京大学理学部4号館1320号室  
出席者：伊藤、井上、海部、坂田、須藤、筒井、牧島、嶺重、望月、山田、劉 (以上11名)  
欠席者：家、池内、岡村、奥村、佐藤、杉山、谷口、観山、渡部 (以上9名)

他に國枝理事長、渡邊・柴田副理事長、竹田・高田庶務理事、田代会計理事、堂谷 PASJ 理事、相馬天体発

見賞選考委員会委員長、石田研究奨励賞選考委員会委員長、宮下事務長が出席した。

開会に先立って議長に山田 亨、署名人として望月優子、坂田 悠、の各氏が選出された。

#### [報告]

1. 前回議事録の確認  
前回(2009年9月15日)の評議員会の議事録(資料1)についての確認がなされた。
2. 理事会諸報告(各事業の近況)  
先日の理事会で担当理事から報告された各事業(年会、天文教育、月報、PASJ)の近況の話題が竹田庶務理事より要点をまとめて紹介された。年会実行委員会にて年会参加資格の見直し提案されていること(「年会での講演は会員のみに限る一方、天文学会に準ずる他学会員も本会員に準ずるものとみなす」案)に関して、退会者が増えるなどの弊害が生じないように十分慎重に検討すべきだとの指摘があった。
3. 2009年度早川基金採択状況報告  
2009年度(第64回-第67回)の早川基金(研究会や観測などの研究活動のために海外に渡航する若手研究者への資金援助)の採択状況が竹田庶務理事より資料15の採択者リストに基づき報告された。採択の倍率はほぼ2倍程度になっている。
4. 事務所関係近況報告  
宮下事務長より資料2に基づき、本年度の事務所職員の陣容、事務所の法的な整備(労働保険加入、過半数代表者の選出、時間外労働・休日労働に関する協定、就業規則の制定)、職員の勤務時間に関する問題(超過勤務の増大など)とそれへの対策方針(積極的時間管理、仕事分担の柔軟な再構成やアルバイトの雇用)が説明された。理事長や実務理事が各職員と定期的に話し合いをするのはよいことだとの意見も出された。
5. 事業仕分けに関する声明  
昨年末の民主党政権下の行政刷新会議による事業仕分けで、我が国の多くの学術分野での研究教育体制が深刻な影響を受けかねない状況に危機感を抱き、日本天文学会からも緊急声明文「事業仕分けと科学研究の将来について」を出し、政府首脳や主だった民主党議員にも送付した経緯が資料3に基づき國枝理事長から報告された。結果的に見て危惧していた研究教育予算の多大な削減は回避されたので、今回の行動はそれなりの効果はあったと思われる。
6. 若手からの報告  
坂田氏から資料16に基づき、天文・天体物理若手の会が事業仕分けに対してどのようなアクション

を起こしたかの経緯（背景，議論の概要，行動内容）が説明された。最終的には（賛同が得られた）「天文・天体物理若手の会 88 名」という署名表式で各分野の若手の会が合同で出した共同声明「21 の若手の会による共同声明—知の継承と未来への投資—」に参加することになった。これに関して「若手でこの声明に異を唱えるものはいたか？」（特になかった）という質問や、「21 の若手の会は生命関係分野が特に多く活動の活発さが目につく」、「これとは別に天文学会からも 14 学会共同声明に参加した」、「学会会議がチャンネルになって全体をとりまとめた行動を起こすことも考えてほしい」、「学会会議は一応会長声明を出したがどちらかといえば事態を静観するという慎重な姿勢を取っている」、「2010 年度はとりあえず大きな影響は避けられたが、次年度以降はどうなるかわからないので今から行動を起こすことが必要」等の色々な意見も出された。

## 7. 学会会議からの報告

海部氏から学会会議の近況に関する報告があった。大型計画のリストアップと大規模研究計画の進行状況。天文宇宙分科会の会員・連携会員の一部改選（再来年）に向けて、選挙は学会会議内部で行うものだが学会に意見を求めることはできるので、天文学会から推薦者をどのようにして出すかを今年中にも議論して決めてほしいこと、など。

## 8. その他

本日欠席された岡村評議員の依頼に基づき、百周年記念出版事業の近況を竹田庶務理事が代理で報告した。シリーズ「現代の天文学」全 17 巻は昨年末に全巻出版完了したのを機に（企画の基になった）寄付者 3 名に全巻セットを贈呈して理事長とともに挨拶に赴いた。宣伝パンフレットでお世話になった小柴昌俊氏と毛利 衛氏にもセットを寄贈した。シリーズの別巻として出版予定の総索引を兼ねた「天文学辞典」は現在項目選びが進行中である。

## 【議題】

### 1. PASJ 紙版配布の選択と個別フリーアクセスオプションについて

資料 4 に沿って、堂谷 PASJ 理事から PASJ に関する議題 2 件が説明された。

一つは正会員に向けて現在デフォルトで配布されている PASJ 紙版の送付を希望者（「電子版にアクセスできれば十分で、紙版は不要なのでむしろ送ってほしくない」という意向の人）に対しては停止するオプションを設ける件（ただし紙版配布の有無にかかわらず会費は変わらない）である。「環境の

ことを考えても大変良いことだが紙版辞退者には出来る範囲で少しでも会費を値下げすることにすればもっと応じる人が増えるのではないか」、「現在の PASJ の寄贈先もこの機会に見直してはどうか」、などの意見が出されたが、この選択を導入すること自体については異論が無く承認された。

もう一つは、現在（最新号を除き）出版後 2 年間はアクセス制限が設けられている PASJ 電子版に関して、論文の著者が追加料金を払うことで自分の論文の電子版ファイルに対しては最初から誰でもフリーアクセスできるようにするという「個別フリーアクセスオプション」である。これについては「特集号の全論文を対象にすることはできないか」などの質問も出たが、「外国の雑誌の場合はどうなっているか」などの点を更に調査して検討を続けるということで結論には至らなかった。

## 2. 2009 年度各賞受賞者の決定

### 2-1. 林 忠四郎賞・欧文研究報告論文賞

林 忠四郎賞選考委員会委員長（祖父江義明氏）の代理として、國枝氏より資料 5 に基づいて林賞選考委員会において推薦のあった 3 名の中から下記の 1 名、欧文報告論文賞については被推薦論文 4 編の中から下記の 1 編、を推薦する旨の報告があった。評議員間の意見交換を経た上で、これらはいずれも十分に受賞に値するという意見が一致し授賞が承認された。ただ推薦理由書にいくつか誤字や誤った使い方の語句が見られたので、更にチェックの上修正することになった。

林 忠四郎賞：常田佐久氏

欧文研究報告論文賞：

“Evidence for Solar-Wind-Exchange X-Ray Emission from the Earth’s Magnetosheath”

Fujimoto R., et al., 2007 年, 59 巻, 133-140 頁

### 2-2. 研究奨励賞

石田研究奨励賞選考委員会委員長より資料 6 に基づき、昨年末に開かれた研究奨励賞選考委員会において 14 名（うち 1 名は年齢制限オーバーで審査対象外）の被推薦者の中から以下の 3 名を授賞候補者として推薦する旨の報告がなされ、議論の結果いずれも十分に受賞に値するという意見が一致し、この 3 名に対して研究奨励賞を授与することとなった。

研究奨励賞：内山泰伸，前田啓一，山崎 了の 3 氏。

なお、①「最近 5 年間における天文学への寄与が顕著なる者」と規定されている内規の解釈について、最近優れた論文を出版しているという意味に限定するのか、あるいは昔の論文でも最近評価されて



引用が増えている場合も含めてよいのか、②業績上の比較ではほとんど優劣付けがたい場合に女性の方を優遇するなどの配慮をしてもよいか、という2点の質問が石田委員長から提示され、①については「昇り盛りの若手に対する賞なのでどちらかといえば前者の解釈の方がより自然であろう」との意見があったものの、基本的にこれは評議員会で決めることではないので、いずれも委員会の自主的判断に任せるということになった。

### 2-3. 天体発見賞・天文功労賞

相馬天体発見賞選考委員会委員長より資料7に基づき、選考委員会において下記のように天体発見賞候補4氏(グループ)[22件]、天文功労賞(長期的な業績)候補1氏、天文功労賞(短期的な業績)候補3氏、を推薦することに決定したとの報告があった。議論の結果、いずれも承認された。

天体発見賞：板垣公一(15件)、野口敏秀(1件)、  
西山浩一・榎島富士夫(5件)、  
西村栄男(1件)、の各氏

天文功労賞(長期的な業績)：板橋伸太郎氏

天文功労賞(短期的な業績)：三品利郎、佐藤英貴、  
SonotaCo ネットワーク(代表 植原敏)の各氏

今回は天体発見功労賞は受賞者の選出がなかった。なお、相馬氏から「天体発見賞は一人で複数件の発見がある場合でもこれまでは一つ一つの発見に対応した賞状とメダルを渡していたが、多数に上る場合は授与式自体も間延びして緊張感が失われる弊害があるので、今度からは賞状やメダルは超新星・新星・慧星の3部門に分ける程度にして各ジャンルで一人で複数天体の発見があってもなるべくまとめて記入する方針でいきたい」との提案があり、承認された。

### 3. 2009年度事業報告書案

竹田庶務理事より資料8に基づいて2009年度の実業報告書案について説明があり了承された。ただ、会員数の変遷などはグラフなどを用いて視覚に訴えるようにした方がわかりやすいという意見があったので次回から考慮したい。

### 4. 2009年度決算報告書案

田代会計理事より資料9に基づいて2009年度の実業報告書案(一般会計と特別会計)についての説明があり了承された。

### 5. 2009年度監査報告

竹田庶務理事より資料10に基づき、2010年1月5日に行われた2009年度の実業報告書と決算報告書の監事による監査が特に問題なく正当と承認され

たことの報告があり、了承された。

### 6. 2010年春季総会議題等

竹田庶務理事より資料11に基づき、春季総会の議題と報告書の説明があり、了承された。

### 7. 会費未納による除名について

竹田庶務理事より資料12に基づき会費未納による37名、1団体、1社の会員除名候補リストが示された。このうち賛助会員1社については今後も手を尽くして先方に会費納入を働きかける努力を続けるということになったが、それ以外については除名もやむなしと承認された。ただし早急に(今後1カ月以内が目安)入金手続きがなされた場合は本リストからは外されて会員資格は継続される。

### 8. 理事長公選制について

國枝理事長より資料13に基づき、来年度からの理事長選任に向けて本年度に選挙を実施する予定で進めている、理事長公選制の選挙施行細則案が説明された。昨年の理事会や評議員会でも回覧されて少しずつ改訂されてきた案であるが、今回も細かい文言から本質的な問題まで色々な意見が出され、原案に対してかなりの手直しが施された。重要な変更点は以下の2点である。(一期2年を努めた後の)再任も可能としていた点が逆に「再任は認めない」となったこと。(理事の場合にならって)評議員との重任も可としていたのが、「(理事長に関しては)評議員と重任はできない」とすること。これらの改訂を全て組み入れた最終案を改めて評議員メンバーのメーリングリストに流して確認することになった。理事会メンバーについても同様に行く。それで承認されたものを総会に諮ることになる。

### 9. 会員名簿作成方針について

竹田庶務理事より資料14に基づき、本年秋に発行する予定の会員名簿の作成方針(会員に対するアンケートを参考にして理事会で了承された案)が説明され、承認された。会員種別番号と氏名と所属は必須で掲載(ただ所属は希望に応じて一般的職種名に書き換え可)。他の4項目は会員の意志で掲載か非掲載かを選択できるが、デフォルト(問い合わせに対して無回答の場合の措置)は、メールアドレスと所属先電話番号は掲載で自宅住所と自宅電話番号は非掲載。ただ、名簿は会員同士が連絡を取るための情報を提供することが主目的なので、掲載の可否を選択可能にするとしても「具体的に連絡するために必要ななんらかの項目は極力掲載してほしい」との学会側からの強い要望を付記するべきであろう、との意見が出された。

## 10. 天文学のアジア・国際連携及び今後の学会活動

海部氏から資料 17 に基づき、研究者は研究だけやっていたらいいのではなくもっと教育や普及活動や国際交流に力を入れるべきであろうという観点から、日本天文学会の今後の活動に関して

- (1) 国際対応の強化・特に東アジアの学会との連携の実現と発展途上国の支援（年会東アジアセッションと 4 学会連絡協議会の設置など）、
- (2) 国内の天文学及び科学の普及活動の強化（天文・科学普及委員会〔仮称〕の設置または現存する他の委員会の改組強化）、

という 2 点の提案がなされた。基本的にこの方向で推進することには異存はなく賛意が示されたが、新たな委員会の設置には手続に多少時間がかかる事情もあり、まずは天文教育委員会などの既存の委員会が中心になり、一方では外部の天文教育系団体（天文教育普及研究会、日本公開天文台協会、日本プラネタリウム協議会など）とも連携を取って、できることから始めようということになった。

## 11. その他

柴田副理事長から「元々評議員会から発案されて実現した昨年度の全国七夕一斉講演会は多大な成功を修めたが（当日配布資料）、準備期間が数カ月しかなかったこともあり十分満足できたというわけでもなく、是非今年も実施したいのでよろしく」との協力の呼びかけがあり、基本的に賛同が得られた。

次回の評議員会は春季年会（広島大）会期中の 3 月 27 日（土）に行う。

## [資料]

- 資料 1. 前回 (2009.9.15) 評議員会議事録
- 資料 2. 日本天文学会事務所職員の陣容・職務と

事務所諸問題整理

- 資料 3. 事業仕分けと科学研究の将来について：日本天文学会からの声明
- 資料 4. PASJ 編集顧問・編集委員会議からの議案
- 資料 5. 2009 年度林 忠四郎賞・欧文研究報告論文賞候補者選考経過報告
- 資料 6. 2009 年度研究奨励賞候補者選考経過報告
- 資料 7. 2009 年度天体発見賞・天体発見功労者賞候補者資料
- 資料 8. 2009 年度事業報告書案
- 資料 9. 2009 年度決算報告書案
- 資料 10. 2009 年度監査報告
- 資料 11. 2010 年春季定期総会議題等案
- 資料 12. 会費未納による除名予定者リスト
- 資料 13. 理事長公選制度における選挙施行細則案
- 資料 14. 2010 年会員名簿作成方針案
- 資料 15. 2009 年度早川基金採択状況
- 資料 16. 若手評議員からの報告書：天文・天体物理若手の会の事業仕分けに対する最終的なアクションに関する報告
- 資料 17. 天文学のアジア・国際連携及び今後の学会活動

+ 当日配布資料：世界天文年全国同時七夕講演会の開催について

2010 年 1 月 23 日

議長：山田 亨 ㊟  
署名人：望月優子 ㊟  
署名人：坂田 悠 ㊟

## 2009 年度日本天文学会各賞について

2009 年度日本天文学会各賞は、2010 年 1 月 23 日の評議員会で次のように決定しましたのでご報告します。

### ◎天体発見賞 (5 氏)

- 板垣公一 (いたがき こういち) 氏: 彗星 C/2009 E1 の発見, 新星へびつかい座 V2672 の発見, 新星エリダヌス座 KT の発見, 超新星 2009N の発見, 超新星 2009ds の発見, 超新星 2009fu の発見, 超新星 2009ga の発見, 超新星 2009gf の発見, 超新星 2009hi の発見, 超新星 2009im の発見, 超新星 2009js の発見, 超新星 2009kr の発見, 超新星 2009md の発見, 超新星 2009mh の発見, 超新星 2009nk の発見
- 野口敏秀 (のぐち としひで) 氏: 超新星 2009at の発見
- 西山浩一 (にしやま こういち) 氏・  
 桃島富士夫 (かばしま ふじお) 氏: 新星 いて座 V5581 の発見, 新星 いて座 V5583 の発見, 新星 いて座 V5584 の発見, 新星 わし座 V1722 の発見, 超新星 2009ls の発見
- 西村栄男 (にしむら ひでお) 氏: 新星 V496 の発見

### ◎天文功労賞 (3 氏)

(長期的な業績)

- 板橋伸太郎 (いたばし しんたろう) 氏: 「60 年にわたる太陽黒点観測」

(短期的な業績)

- SonotaCo ネットワーク (代表 牧原 敏 まきはら とし) 氏: 「流星の同時多地点ビデオ観測ネットワークのよる多数の新流星群の発見」
- 三品利郎 (みしな としろう) 氏: 「木星面の衝突痕の検出と迅速な報告」
- 佐藤英貴 (さとう ひでたか) 氏: 「2009 MB9 を LINEAR 周期彗星 (P/2004X1) と同定」

### ◎研究奨励賞 (3 氏)

- 内山泰伸 (うちやま やすのぶ) 氏: スタンフォード大学・SLAC 国立加速器研究所・パノフスキーフェロー  
 研究テーマ: 「超新星残骸における粒子加速と宇宙線起源の研究」
- 前田啓一 (まえだ けいいち) 氏: 東京大学 数物連携宇宙研究機構・特任助教  
 研究テーマ: 「超新星爆発構造の理論・観測的研究」
- 山崎 了 (やまざき りょう) 氏: 広島大学・助教  
 研究テーマ: 「ガンマ線バーストの多様性に関する理論的研究」

### ◎林 忠四郎賞 (1 氏)

- 常田佐久 (つねた さく) 氏: 国立天文台・教授  
 研究の表題: 「飛翔体観測装置による太陽の研究」

### ◎欧文研究報告論文賞 (1 編)

- 論文題目: “Evidence for Solar-Wind Charge-Exchange X-ray Emission from the Earth’s Magnetosheath”  
 著者: 藤本龍一 Fujimoto, Ryuichi; 共著者 Mitsuda, Kazuhisa; Mccammon, Dan; Takei, Yoh; Bauer, Michael; Ishisaki, Yoshitaka; Porter, Scott F.; Yamaguchi, Hiroya; Hayashida, Kiyoshi; Yamasaki, Noriko Y.

(社)日本天文学会へ2009年6月13日~2010年1月23日までの間に入会された方、退会された方、除名された方をお知らせいたします。

### 正会員入会 (71名)

長崎岳人 筑波大・大学院数理物質科学 (在学)  
 大西隆雄 京都大・大学院理 (在学)  
 田崎文得 京都大・大学院理 (在学)  
 大濱伸之 鹿児島大・大学院理工 (在学)  
 村上 健 神戸大・大学院理 (在学)  
 荒井 均 筑波大・大学院数理物質科学 (在学)  
 木村 公 大阪大・大学院理 (在学)  
 金川和弘 北海道大・大学院理 (在学)  
 佐野栄俊 名古屋大・大学院理 (在学)  
 青山翔一 宮崎大・大学院工 (在学)  
**Hillier Andrew** 京都大・大学院理 (在学)  
 田中周太 大阪大・大学院理 (在学)  
 下田優弥 埼玉大・大学院理工 (在学)  
 梅畑豪紀 東京大・理 (在学)  
 吉川一朗 東京大・理  
 秦誠一郎 国政法律事務所  
 眞榮田義臣 京都大・大学院理 (在学)  
 林 秀憲 宮崎大・大学院工 (在学)  
 松木 舞 神戸大・大学院理 (在学)  
 斉藤秀樹 大阪教育大・大学院教育学 (在学)  
 三木洋平 筑波大・大学院数理物質科学 (在学)  
 石川真之介 東京大・大学院理 (在学)/JAXA・宇宙科学研究本部  
 田中邦彦 慶応義塾大・理工  
 吉井理恵 東京理科大・大学院理 (在学)  
 蔵満康浩 大阪大・レーザーエネルギー学研究センター  
 中島王彦 東京大・大学院理 (在学)  
 平社 航 東京大・大学院理 (在学)/JAXA・宇宙科学研究本部  
 鈴木賢太 東京大・大学院理 (在学)/国立天文台  
 山本常夏 甲南大  
 室岡純平 東京大・大学院理 (在学)/国立天文台  
 中島美紀 東京工業大・大学院理工 (在学)  
 橋本 淳 総研大 (在学)/国立天文台  
 前川 淳 国立天文台・野辺山宇宙電波観測所  
**Chibueze James Okwe** 鹿児島大・大学院 (在学)  
 東谷千比呂 東北大・大学院理  
 篠崎恵一 千葉県立柏の葉高校

### 準会員入会 (14名)

宮田敬介 全国心理カウンセリング機構  
 原川紘季 東京工業大・大学院理工 (在学)  
 野田祥代(土屋) 国立天文台・天文データセンター  
 森田英輔 国立天文台  
 伊藤亮介 広島大・大学院理 (在学)  
 小松智之 広島大・大学院理 (在学)  
 前橋秀紀 筑波大・大学院数理物質科学 (在学)

家中信幸 東京大・大学院理 (在学)  
 林 隆之 東京大・大学院理 (在学)/国立天文台  
 館内 謙 北海道大 (在学)  
 西澤篤志 国立天文台・理論研究部  
 山口正輝 大阪大・大学院理 (在学)  
 大井瑛仁 茨城大 (在学)  
 小谷隆行 JAXA・宇宙科学研究本部  
 鳥羽儀樹 総研大 (在学)/JAXA・宇宙科学研究本部  
 扇谷 豪 筑波大・大学院数理物質科学 (在学)  
 中村繁幸 筑波大・大学院数理物質科学 (在学)  
 渡辺辰雄 工学院大・大学院工 (在学)  
 池田浩之 愛媛大・大学院理工 (在学)  
 植田準子 東京大・大学院理 (在学)/国立天文台  
 中尾 光 北海道大 (在学)  
 神谷修平 東京大・大学院理 (在学)/JAXA・宇宙科学研究本部  
 古家健次 神戸大・大学院理 (在学)  
 福永健介 東京大・大学院理 (在学)  
 古澤順子 国立天文台・天文データセンター  
 榎本雄太 東京工業大 (在学)  
 羽賀崇史 総研大 (在学)/JAXA・宇宙科学研究本部  
 関谷典央 東京大・大学院理 (在学)/JAXA  
 真鍋 翔 東北大・大学院理 (在学)  
 唐崎健嗣 (株)ホットスター/国立天文台・天文情報センター  
 馬場淳一 国立天文台・理論研究部  
 秋山和徳 北海道大 (在学)  
 中村 哲 中村コンピューターアルゴリズム研究所  
 新井俊明 東京大・大学院理 (在学)/JAXA・宇宙科学研究本部  
 中村 元 広島大・大学院理 (在学)  
 利川 潤 京都大 (在学)  
 津 栗 東京大・大学院理 (在学)  
 濟川健太郎 愛媛大・大学院理工 (在学)  
 谷 聡人 愛媛大・大学院理工 (在学)  
 鈴木昭宏 東京大・大学院理 (在学)  
 清水一真 東京工業大・大学院理工 (在学)/JAXA・宇宙科学研究本部  
 赤松弘規 首都大学東京・大学院理 (在学)

村中淑秀 酪農学園大  
 岩瀬光男 東京都世田谷区在住  
 黒島善和 八重山星の会  
 塚田 健 姫路市宿泊型児童館・星の子館  
 長井恵子 (株)福山コープ  
 山本好昭 放送大学 (在学)  
 竹内良貴 名古屋大・大学院理 (在学)



賛助会員入会 (2社)

IOP 英国物理学会出版局

日本真空光学(株)

移籍会員〔準→正〕 (3名)

日比野欣也 神奈川大・工  
大朝由美子 埼玉大

空華智子 東京大・大学院理 (在学)/JAXA・宇宙  
科学研究本部

移籍会員〔正→準〕 (28名)

土居政雄	武山邦彦	長谷川俊雄	前田耕一郎	前原英夫	横尾武夫	渡辺悦二	木舟 正
山下朗子	岡田京子	加藤睦彦	見崎一民	立川崇之	高木俊暢	酒泉武志	森 寛志
新井宏二	高橋智子	眞山 聡	榊原誠一郎	千貝 健	白田晶人	中村理央	若月茂央
日下部元彦	阿部幸二	勘田裕一	大澤 健				

正会員退会 (32名)

近藤啓二	ズブコ ナタリヤ	Patrick Antolin	鈴木雅一	細谷曉夫	宮本俊介	前澤 洵
吉村圭司	秋山幸子	笠間太介	佐藤理江	笹子宏史	上松佐知子	中西靖男
井原 隆	下川辺隆史	宮本 泉	坂本晶子	入谷日奈子	島田雅史	栗本裕巖
川村雅之	梶野裕喜	野村英範	和田 茜	北村美佐絵	安藤征史	小林溪太
梅津敬一						間明田好一

準会員退会 (41名)

篠原 靖	安田春雄	山崎勝三	相原惇一	今井富夫	岩館健三郎	内村昭司	影山晃弘
上條史夫	熊谷 博	佐々木稔	佐藤忠弘	菅沼廣隆	樽沢賢一	福岡 孝	前川浩一
宮本昌典	横川征純	小北純子	藪内邦雄	須賀一治	石井利幸	田代基慶	相田 章
広田一郎	岡崎 亘	藤田正吾	黒川一成	間所秀樹	白極光典	小川 敦	北條雅典
常富直之	小泉 修	木下健一	小宮山円	上原悠一	吉田広明	小沢万里	山崎高幸
保坂 俊							

正会員除名 (23名)

下小田博一	松谷 研	田村健一	似鳥啓吾	松永達郎	丹羽佳人	梅谷真史	首藤尚丈
西川貴行	山内良亮	長倉隆徳	松浦大介	萩原健三郎	新井敬朗	西山晋史	南 篤志
村多大輔	齋藤信明	栗山純一	渋谷 宙	宮川直己	吉野友崇	塚本裕介	

準会員除名 (11名)

小松 朗	宍戸清顕	菅谷敏孝	堀本豊治	山田浩一郎	阪本康史	鮫島昌弘	保田知則
高瀬 裕	額谷宙彦	吉良知恵					

訃 報

本会会員であり、文化功労者、文化勲章を授賞された、林 忠四郎氏 (京都大学名誉教授) が去る 2010 年 2 月 28 日逝去されました (享年 89 才)。

謹んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。

児玉忠恭(編集長), 浅井 歩, 柏川伸成, 衣笠健三, 鈴木 建, 徂徠和夫, 竹井 洋, 野田寛大, 浜名 崇, 三好 真, 山崎 了, 吉田直紀

平成 22 年 3 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

©社団法人日本天文学会 2010 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)